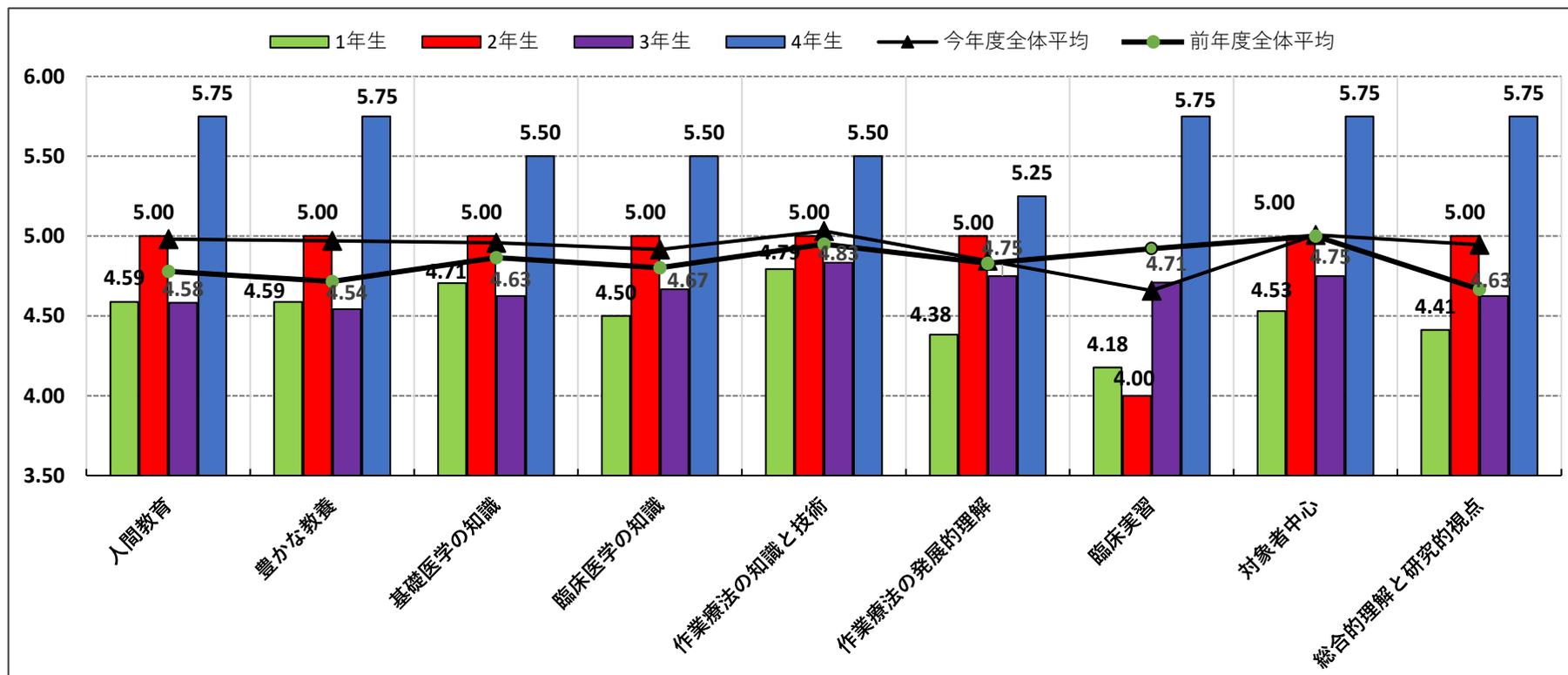


2021年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年生 34名 (85.0%)、2年生 1名 (2.6%)、3年生 24名 (68.6%)、4年生 4名 (9.8%)。
- ・全体的な傾向・充足度合：前年度に引き続き、今年度の学習においても COVID-19 の影響により、各学年に準備された臨床の場の経験に制約があり、特に1・2年生は現場での経験を十分に得ることができなかったことから、他の学年に比して低い値となった。3・4年生は前年度以前の実習経験に応じた値となった。また、2年生と4年生の回答が少ないため正確な分析は難しいが、「豊かな教養」や「基礎医学」などで1年生より3年生の値が低かった。これは学年が上がることによって求められる教養や基礎知識の量が拡大することで、学生自身がさらなる教養を身に付け、学習していく必要性を感じた結果と考えられる。
- ・前年度との比較：学年によって回答率に差があり、今年度の全体平均との単純な比較はできないが、折れ線グラフの形状より概ね前年度と同水準か向上しているものの、「臨床実習」と「総合的理解と研究的視点」がやや下回ったことから、この点は次年度に向けた課題としたい。



理学療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年生16名（36.4%）、3年生データ18名（37.5%）、4年生42名（90.5%）、2年次の回収率は0%であり、アンケートの回収率は低調に終わった。
- ・全体的な傾向・充足度合：8項目すべての項目において、学年に上がるにしたがってポイントの上昇が認められることから、教育課程の編集・実施の方針は適切に満たされていることがうかがわれる。3年生に関しては、今回の調査期間は臨床実習を終え、理学療法研究法で研究計画の立案を学習している最中にあり、特に「自己研鑽と研究」、「自分の責任と協調性」においてポイントが高くなっているものと推察される。
- ・前年度との比較：前年度との比較では、「基礎力の追及」および「地域と予防医学の修得」以外の項目で前年度よりも低値を示した。過去のデータから本専攻では、学年が上がるにしたがってポイントが高くなる傾向にあるため、本結果において2年生の回収率が0%であったことが影響を及ぼしたものと考えられた。2年生のデータが欠損しているため、適切な判断および検証が困難であるため、次年度以降の回答率を上げ、分析に生かしていけるよう取り組んでいきたい。

